

JART 企画

JART 企画① 10月3日（土）10:00～11:00 第3会場

より安全・安心な小児検査を目指して

座長 東北大学病院 高野 博和

岩手県立中部病院 高橋 大輔

1. 小児医療におけるプレパレーションの重要性や実践方法について

宮城県立こども病院 大塚 有希

2. 小児検査における工夫や取り組みについて

宮城県立こども病院 富永 亜彩

放射線領域における小児検査では、目的に応じた検査を確実に行うために、鎮静薬の使用や撮影時間短縮などの工夫が行われている。しかし、鎮静薬には重篤な合併症リスクがあり、短時間撮影は画質低下を招く可能性がある。また、検査への恐怖や不安は小児の心理的負担となり、次回以降の検査にも影響し得る。

本企画では、同一施設で連携して小児支援を行うチャイルド・ライフ・スペシャリスト（CLS）と診療放射線技師に、プリパレーションや非薬物的鎮静の取り組み、撮影技術上の工夫について実践例を共有していただき、今後のより安全・安心な小児検査に繋がることを期待する。

JART 企画② 10月3日（土）16:00～17:00 第3会場

診療放射線技師の新たな挑戦～領域を超え、未来価値の創造へ～

座長 星総合病院 続橋 順市

いわき医療センター 名城 敦

1. 現場を知る経営企画

太田総合病院 大原 亮平

2. 診療放射線技師による地域医療連携業務への挑戦

公立岩瀬病院 福田 和也

3. 次世代の診療放射線技師に求められる「多角的な視点」

～テクノロジーとマネジメントを武器に医療の未来をデザインする～

みやぎ県南中核病院 坂野 隆明

近年、診療放射線技師には、医療需要の多様化を背景として、従来の放射線を用いた画像診断検査や治療業務に加え、領域を超えた新たな業務へ挑戦することが求められている。

本シンポジウムでは、その新たな挑戦に取り組んでいる太田綜合病院 経営企画室 大原氏、公立岩瀬病院 経営戦略室 福田氏、みやぎ県南中核病院 統合情報診療部 坂野氏の3名の診療放射線技師を演者として迎え、ご講演いただく。

病院マネジメントや人材育成をはじめ、地域連携、多職種連携、患者中心の医療など、それぞれの立場から実践されている取り組みを通して、新たな未来価値を創造する診療放射線技師像を描き、その可能性と今後の展望について考察する。

JART 企画③ 10月4日（日）9:00～10:00 第4会場

説明(Before)×相談(After)で築く放射線医療－AI時代における“安全と信頼”の見える化

座長 山形県立中央病院 荒木 隆博

函館五稜郭病院 小林 聖子

1. Before－説明の質が安全を変える

～AI時代に「人」が紡ぐPX（患者体験）：医療安全の基盤となる信頼構築～

函館五稜郭病院 小林 聖子

2. After－説明のその先へ

～安心と納得を支える放射線被ばく相談～

東京メディカルクリニック 荒木 智一

3. AI×Human－技術革新と信頼構築

市立角館総合病院 千葉 大志

AIやDXの発展に伴い、検査説明や被ばく相談の自動化が急速に進んでいます。しかし、患者の不安に寄り添い、真の信頼を築くためには「人の介在」が不可欠です。本シンポジウムでは、検査前の「説明」と検査後の「相談」を安全コミュニケーションの連続線として捉え、Safety-I（リスク回避・再発防止）とSafety-II（成功事例の共有・再現）の視点から現場の実践例を提示します。AI時代だからこそ求められる、放射線医療における「安全と信頼の紡ぎ方」を共に議論しませんか。皆様のご参加をお待ちしております。

JART 企画④ 10月4日（日）14:00～15:00 第4会場

Japan DRLs2025 の線量管理への取り組み

座長 秋田県立循環器・脳脊髄センター 加藤 守

青森県立中央病院 伊丸岡 俊治

1. IVR の線量管理

太田西ノ内病院 瀧田 幸子

2. 据置型 X 線透視装置の線量管理

新潟大学医歯学総合病院 新田見 耕太

3. 移動型 X 線透視装置の線量管理

岩手医科大学附属病院 廣田 靖之

2025 年 7 月に公開された Japan DRLs2025 では、移動型 X 線透視装置の追加、据置型 X 線透視装置と移動型 X 線透視装置の透視線量率および撮影線量の参考値が追加されました。

本企画ではこの変更点に着目し、IVR や診断透視における具体的な透視線量率等の測定および管理方法から、検査データを用いた実践的な線量管理の取り組みを講演していただきます。

各施設の測定環境や運用規程を見直す絶好の好機です。明日からの被ばく線量管理をアップデートすべく、ぜひ本シンポジウムへご参集ください。